

鹿ノ台川柳教室

九月十八日(月)

お題「愛想」(連記)

首藤宏樹選

- 如才なく過して今の不仕合せ  
 往年の看板娘古希過ぎる  
 かと言って医者のお愛想良すぎて  
 金の顔見せたとたんにお愛想増し  
 受付の態度が決めるお医者さん  
 無愛想なおやじの味が客を呼ぶ  
 年のせい愛想するもぎこちない  
 愛想よし周りに好かれ人気者  
 無愛想売りものにする勘違い  
 身の程を知らず愛想尽かされる  
 くたびれた器量を倍にする愛想  
 お似合よお愛想に負けふえる服
- ◎御愛想の裏の裏読む年の功  
 ◎落語家は笑いの渦に愛想まく
- 正清  
 乃り子  
 よう子  
 登美  
 千楽  
 アキラ  
 哲子  
 えいじ  
 英二  
 勝利  
 広子  
 よし尚  
 義雄  
 宏樹

自由吟(共選)

勝部乃り子選

- ミサイルが頭に当り死ぬ魚  
 孤独な心救いもとめるスマホ病
- 義雄  
 よう子

暴言不倫お次はリトウリトウ

黎明の辺りを払う核兵器

必要とされてる幸のもどかしさ

同じバスひとり欠けると胸騒ぐ

先人の吐息胸打つ吉野山

辛抱とあきらめ感が同居する

台風の子よつと浮き浮き非日常

断捨離に生きてる意味もふと問われ

黒い霧晴らせど白に染らない

笑えないジャンヌダルクの墮ちた罍

ししとうに赤い実一つ夏が行く

古書市でときめかしてる本の虫

◎抜かりなく演じたはずの針の穴

◎月下美人香り冷凍出来るなら

千楽

正清

広子

英二

広子

勝利

英二

アキラ

勝利

哲子

よし尚

よう子

正清

乃り子

自由吟(共選)

橘 正清選

台風の子よつと浮き浮き非日常

海は秋あゝの煌きは彼方へと

愛し日は秋色まとい去つてゆく

孤独な心救いもとめるスマホ病

地对空北と日本と睨めっこ

断捨離に生きてる意味もふと問われ

英二

千楽

哲子

よう子

宏樹

アキラ

辛抱とあきらめ感が同居する  
 ミサイルが頭に当たり死ぬ魚  
 先人の吐息胸打つ吉野山  
 鬼ヤンマそこに居てくれ夏の顔  
 ⑥疑問符を付けた風船放つ闇  
 ⑦笑えないジャンヌダルクの堕ちた畏  
 ⑧黒い霧晴らせど白に染まらない  
 ⑨抜かりなく演じたはずの針の穴

勝利 義雄 広子 よし尚 義雄 哲子 勝利 正清

何気ない言葉がつけた深い傷  
 重い哀しみゆるり流れる川の底  
 ⑤悲喜こもごも全部呑み込む深い海  
 深遠な思想の井戸を覗きみる  
 ⑥底無しの闇守り抜く多数決  
 ⑦アナログとまだ続いている深い仲  
 ⑦欲深く地下のゴミまで金にする  
 ⑦深い淵避けて浅瀬で流される

英二 広子 乃り子 正清 義雄 よう子 乃り子 義雄

お題 「深い」(互選)

②人生の深みにはまり観念す  
 何故甦る埋めたはずのあの記憶  
 戦争の怨みが刻む深い溝  
 いたわりと無言の愛が背中押す  
 極めれば尚その奥の深さ知る  
 無理してる笑顔の奥の涙顔  
 もういいか深い眠りにつこうかな  
 ③とりあえず深くなくとも長続き  
 深深と頭下げても上の空  
 ④学歴無い母にはあった深い思慮  
 なにげないホンの一言深い傷  
 哲学のすみかは深い森の奥

哲子 英二 勝利 哲子 よう子 登美 えいじ 広子 勝利 アキラ よし尚 正清

\*いつも発想豊かな連記。  
 今回の「愛想」では、古稀、年のせい、年の功とシニアらしい感想。  
 自由吟では一転し、ミサイル、核兵器、闇…と現在そのものが目立つ。  
 自由吟で初めてのことか。  
 橘正清さん選で、秀句が三句出た。  
 理由は「甲乙つけ難いから」という。  
 良一人は欠席だったが、連休中ながら出席十四人。  
 来月から、宿題でなく、その場でお題を出す「席題」を始めることになった。  
 出たところ勝負、皆さんはどんな成果を生むでしょうか。  
 \*千楽

次回十月十六日、午後一時から、西集会所。

宿題のお題、「采配」、「背く」、それに「自由吟」。各二句。

\*「采配」は連記で一枚の短冊に二句とも書く。

\*「自由吟」は選者二人の共選、二部提出のこと。

当日席題あり。十二時三十分「お題」発表、  
出句は、宿題十三時、席題十三時十五分。

\*「脳トレ」に 仲間作りに 川柳を」

川柳教室の見学ご自由に。ご入会大歓迎。

お問い合わせは左記まで、お気軽に。

### 問合せ

五十嵐修（79・0751）、原広子（79・0061）